

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 10 日	
所属部局・職	霊長類研究所 M1、PWS L1
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国、赤道州、ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ボノボ父系社会における、成熟に伴うメスの出自集団移出までの過程
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 11 月 15 日 ~ 平成 27 年 2 月 27 日 (104 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
WBCR, Dr. Furuichi, GREF
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>■ 調査背景</p> <p>ヒトに最近縁とされるチンパンジー、ボノボは複雄複雌集団かつ、一般に性成熟後メスが出自集団から他集団へ移籍する、メス分散・オス定住型社会を持つ。哺乳類においてはメスが出産・育児の負担を多く担うため、オス分散の社会が広くみられるが、どうして彼らはメス分散社会を持つのだろうか？人類もまた一般には“父系社会”構築することが指摘されており、Pan 属のメス分散社会における究極要因の理解は、初期人類社会構造を考察する上で大いに役立つものと思われる。しかしながら、大型類人猿のゆっくりとした成長は彼らの生活史の解明に困難を来しており、さらには研究対象にできる個体数の制限といった問題の中で、メス分散における至近要因には多くの謎が残っている。これらを理解するためには、長期的かつ通時的な研究が求められる。私は、メス分散における過程の1つである、出自集団からの移出過程に焦点を当て、野生ボノボの調査地の一つであるワンバ村にて、5年間にわたる通時的な研究を行うつもりである。</p> <p>■ 調査目的</p> <p>2014年11月15日から2015年2月27日までの期間、野生のボノボを研究するためコンゴ民主共和国に滞在した。この調査の主目的は、個体追跡による行動データの記録と尿サンプルの取得であった。尿サンプルは、実験室で女性ホルモンのデータを調べるのに使用する。これらのデータから年齢に伴うコドモの行動、社会関係の変化を分析する。</p> <p>■ 調査状況</p> <p>チンパンジー・ボノボは離合集散する単位集団を持つ。この時期は乾季で、恐らく森に食べ物が不足がちだったため、追跡しているパーティーのサイズは小さい場合が多く、行動データ、尿サンプルを集めるのに苦労した(とはいってもチンパンジーとは異なり、集団の半数以上の個体が1日に確認できる)。それでも運よく、対象個体12個体のうちのそれぞれにおいて、最低限の個体追跡による行動データを取得した(合計約184時間)。また、尿サンプルは155サンプル取得した。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org



互いにグルーミングをするメスたち



遊び休憩中のコドモメス



コドモメスにグルーミングする母親

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



落ち葉を抱えて座るコドモオス



だらけるコドモオス



撮った映像を確認する僕と Local staffs

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

■ 謝辞

PWS Leading Program に資金的な支援をしていただき調査を行うことができました、心より感謝申し上げます。